

2025年度シンポジウム活動報告

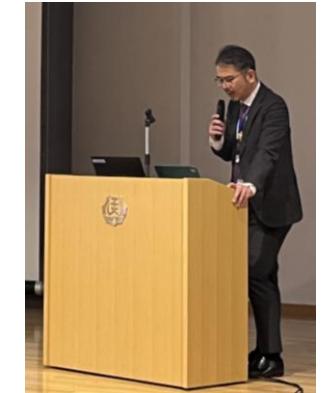
- ・開催日時：2025年11月6日（木）14:30～17:55
- ・開催場所：名古屋工業大学 NITechHall
- ・テーマ：『PM大変革時代！AI・人・世代を制するプロジェクトマネジメント新常識』



1. 挨拶

(1)中部支部長 大日方 篤氏

- ・はじめに、参加者及び、講演・協賛団体、関係者の皆様に向け、本日の開催を迎えたことへの感謝を述べた
- ・国際的なプロジェクトの成功率はQCD+S+価値創出で48%とされ、日本のITプロジェクトの成功率（QCD+S）は67%だが、価値創出まで含む国際基準に照らすと改善が必要。トレンドとして、生成AI-RAGやAIエージェントが注目される中、日本のAI基盤としてソブリンAIの開発が進行中。また、プロジェクトマネジメントの世界にもAIの浸透が進んでいることに触れつつ、シンポジウムの開宴を迎えた



大日方 篤氏



後藤 協子氏

(2)本部総務委員長 後藤 協子氏

- ・PM学会の動向として、支部7つ目である東北支部が2025年10月設立された
 - ・PM学会は、プロジェクトマネジメント資格であるIPMA/ICB認定資格試験の運営を日本唯一執り行っている団体である
 - ・日立G内のAI活用事例として、PM実施賞を受賞した事例を紹介
- プロジェクト悪化予兆を定量的データからではなく、報告書・議事録から自然言語のトーンをAI分析し悪化リスクを予兆する仕組みづくりにトライしている

2. 特別講演

(1) 「AI 時代のプロジェクトマネジメント～AI × 人の共創が導く、進化と価値創出の可能性」

アクシスインターナショナル(株) 中谷 公巳氏

・AIの進化により、プロジェクトマネージャーの役割が変化し、より戦略的判断やリーダーシップが求められるようになると指摘しています。AIは定型業務や進捗管理を担う一方、人間は戦略的判断や合意形成、推進のリーダーシップを担う。また、AIと人間の協働が重要であり、AIは単なる機械ではなく、支援者として認識されるべきだと述べています。プロジェクトマネジメントオフィス (PMO) の役割も強調され、AIを活用して必要な情報を得ながら、意思決定をサポートすることが理想的とされています。最後に、AI時代のプロジェクトマネジメントは、競争力を高め、価値を生み出すための重要な要素であると締めくくった



中谷 公巳氏

(2) 「プロジェクトを成功に導く人材を育てる～システム工学の視点から～」

(株)レビィ 三浦 政司氏

・プロジェクトを成功に導く人材を育成するためのシステム工学の重要性と、その実践例が紹介されました。三浦氏は、システム工学の基本概念を理解し、複雑なシステムを扱うためのエッセンスを伝えることの重要性を強調しました。具体的には、対象システムをシステムとして捉え、上流設計の段階で適切な抽象度で合意を得ることが重要と述べました。また、教育的アプローチとして、ボードゲーム「ペジテの自転車」を用いてシステム開発の体験をさせ、その後の振り返りを通じて学びを深める方法を紹介しました。このゲームは、システム開発の全体像や難しさを体感的に理解してもらうためのものです。しかし、プロマネの導入教育の段階を超えて実際のプロジェクト成功に至るまでのスキル習得には、更なる実践と失敗経験が必要であると締めくくった



三浦 政司氏



加藤 京子氏

(3) 「新時代のマネジメント転換術」 (株)クレドコラ 加藤 京子氏

・現代の多様な価値観により、個別の対応が必要となっており、職場行動が複雑化しています。上下関係は年齢順ではなくなり、信頼関係が重要になっています。若者とのコミュニケーションに悩む上司が多く、管理職研修でもこの悩みがよく聞かれます。デジタルネイティブ世代の特徴やSNSを通じた人間関係の変化が指摘され、相手の価値観や興味を知ることが重要です。指導においては、具体的な行動指示と未来に向けた言葉を組み合わせることが有効であり、感受性、動機づけ、指導スキルの向上が必要です。若者の自己実現欲求を理解し、仕事の意義を説明することも大切です。部下のライフステージに寄り添った指導を行うことが重要と締めくくった

3. 閉会挨拶

(1) 司会進行役の支部役員 古畠慶次氏より、閉会の挨拶が行われ、盛況なシンポジウムを締めくくった



古畠 慶次氏

4. 懇親会

(1) シンポジウム閉会後、名古屋工業大学大食堂にて、懇親会を開催

・シンポジウム参加者、登壇者、学会関係者による交流・プロマネ談義に華を咲かせた

